

大菩薩：大菩薩連嶺縦走

- ◆日程 2021年4月24日(土)～25日(日)
 ◆メンバー L：OT, SD, HN

ハイキングユニットでは昨年度から毎月4週目の週末にハイキングを企画しており、今回も中央線沿線で丑年にちなみ、牛奥ノ雁ヶ腹摺山(日本一名前が長い)の実行を目論んでいた。一方で、大菩薩連嶺縦走をいつかやろうと思っていた。そんな折、春合宿に向けてのテント泊トレーニング企画をしておこうということで、二つの目的を兼ねて計画した。(記：OT)

4月24日(土) 天候：晴

今回のコースは以前から行きたいと思っていたので楽しみである。コース上には秀麗富嶽十二景に選ばれている山が5つもある。

JR 甲斐大和駅からのバスは乗車する人多く2台目も来ていた。上日川峠に近づくと路肩に多くの車が停めてあり、終点には大型バスが何台か停まっており登山者がたくさんいた。大菩薩峠までは約1時間の登り。天気よく暖かい。峠からは南アルプスが良く見える。石丸峠への下りで富士山が見えた。稜線上は視界の開けた草原が多く気持ちのいい尾根歩きだ。今回のコース上で一番標高の高い小金沢山に着いた時は、自分とOTさんは目にしみるくらい汗をかいていたのだが、SDさんは汗をかいていなかった。この差は何だろう？新陳代謝の差か？一年中運動しているからか？荷物の軽量化に成功したからか？いつも一番大きなザックを背負っているSDさんが今日は一番小さいザックを背負ってきた。新しいテントを手に入れ軽量化とコンパクト化を進めたようだ。小金沢山山頂には鹿がたくさんいて、我々がいても逃げず徐々に近寄って来た。牛奥ノ雁ヶ原摺山、黒岳と稜線をつないでいく。常に南に向かっているの、正面の富士山がだんだん近づいてくる。今日最後のピーク黒岳からは明日歩く稜線が一望でき、滝子山がはっきり見える。湯ノ沢峠まで急な斜面を下るとすぐに避難小屋が現れた。近くの水場で水を汲み、小屋のすぐ



近くにテントを張った。小屋には誰もいなかったもので、夕飯時は小屋で過ごした。電気が通っていて明かりがつくので快適であった。明日は午後天気は崩れる予報なので6時出発とし20時に就寝。外は冷え込んでいて寒くて何度か目が覚めた。(記：HN)

CT：上日川峠発 10:10 - 大菩薩峠 11:15/11:38 - 小金沢山 12:54/13:15
 - 牛奥ノ雁ヶ腹摺山-13:44/13:54 - 黒岳 15:00/15:08 - 湯ノ沢峠着 15:50

4月25日(日) 天候：晴時々曇

深夜から冷え込みテントに結露あり。うっすら雲がかかっている。天気は午後には崩れるとの予報のため、昼にはゴールすることを目標に早めに歩き始めた。

宿泊地の峠を出てしばらく草原を行くと登り返すが、今日歩く稜線の高度は、昨日より200mも低い。ほどなく最初のピークの大蔵高丸。ここも草原状のピークで富士山や南アルプスが雲海の上に広がっている。気持ちの良い草原状の稜線歩きを続けるとほどなくハマイバ丸。「ハマイバ」とは変な名前だねと話

していたら「破魔射場」との看板。素敵な名前なので地図にはこちらを書いておいて欲しいものだ。続いて大谷ヶ丸。枯れ枝に遮られてさほどの展望ではないが、朝日に照らされた南アルプスの雪が眩しい。いよいよこの縦走を締めくくるピーク滝子山への登り返しだ。といっても高低差は130m程でほどなく山頂。丁度天気も良くなり、眺望が素晴らしい。富士山との間を隔てる大きいピークはひとつまた一つ減り、いよいよ三ッ峠山だけになった。藪が邪魔しているが、北西に連なる山の上に特徴的な突起。金峰山の五丈岩までも見える。あとは下るだけ。標高差1200m程なので、丹沢の大倉尾根と大差ない。昼前にはゴールできそうだと思って歩き出すと、急下降の連続で足の指先が痛むなど手こずった。今日最大の核心部はこの下りだったと確信した。早めに下山出来たお陰で帰宅後は天気が崩れる前にテント干しなどの片付けが出来、いい具合に休息も取れた。

本ルートはアクセスも良く、手軽にテント泊が出来る。何と言っても富士山に向かって進む南下コースがお勧めだ。(記：OT)

- CT：湯ノ沢峠 6:05 - 大蔵高丸 6:35/6:40 -
- ハマイバ丸 7:00/7:10 - 大谷ヶ丸
- 8:05/8:15 - 滝子山 9:25/9:50 - 910m
- 地点(手洗い用水場) - 10:45/11:00
- 初狩駅 12:05

